

「第5回サステナブル住宅賞」について

一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構

第5回サステナブル住宅賞は、国土交通省、独立行政法人住宅金融支援機構及び独立行政法人都市再生機構の後援、財団法人ベターリビングをはじめ37の関係団体の協賛を得て実施しました。

同賞の主旨は次のとおりとし、作品の募集を行いました。

地球温暖化問題等環境問題は、人類にとって最も大きな課題のひとつであり、環境の保全、サステナブル社会の形成が強く求められています。

このような状況の中、政府では2008年に省エネ法の改正を行い、住宅・建築物の省エネルギー措置が強化されました。さらに、我が国は、温室効果ガスを90年比で2020年までに25%削減するという目標を国際的に表明しており、エネルギーの全消費量の3割を占める住宅・建築物に係る民生部門において、益々大きな役割と責務を担うこととなります。

住宅においては、断熱・気密に配慮した構造はもとより、耐久性・耐用性に配慮した長寿命で、省資源、資源循環に配慮し、効率的な冷暖房機器の採用にとどまらず、日照、採光、通風、換気、日射遮蔽装置などの建築的手法を効果的に組み合わせた省エネルギー、太陽熱など自然エネルギーの利用、雨水利用、排水抑制等水の有効利用、バリアフリーを考慮した、空気汚染のない健康的な室内環境、まちなみに調和し、緑に囲まれた住まいの環境などが求められます。

これらから、住宅の豊かさを維持しながら、建物の長寿命化、省CO₂、省エネルギー、省資源、資源循環など環境負荷低減に配慮した、先導的なサステナブル住宅を顕彰することにより、それらに関する技術等の向上とその普及促進を図り、サステナブル社会の構



村上理事長挨拶

築と地球温暖化対策に寄与することを目的に、住宅の建設に携わられる方々はもとより、一般の方々にも先導となる優れた提案内容を具体化し建設された戸建住宅を、新築の住宅を対象とする「新築部門」と、省エネ改修など住宅ストックの環境・省エネルギーに関する質の一層の向上を図るため、増改築・改修の住宅を対象とする「改修部門」とに分けて募集しました。

応募は30作品あり、審査委員会において厳正かつ公正な審査の結果、9作品の受賞が決定しました。

表彰式は、平成25年2月18日（月）東京都千代田区霞ヶ関の「東海倶楽部」（霞ヶ関ビル35階）において後援の機関、協賛団体から多数のご来賓のご臨席を賜り、来賓を代表して坂井学国土交通大臣政務官の祝辞、各賞の表彰、審査委員長 鎌田元康東京大学名誉教授による入賞作品講評が行われました。引き続き、受賞者、審査委員及び関係者を交えて懇談会が和やかに行われました。

特集◎「第5回サステナブル住宅賞」受賞作品介绍

募集要項の概要

1. 対象となる住宅

次の全てを満足する戸建住宅とする。

- (1) 日本国内に存する、建築関係法令に適合するもの
- (2) 募集締切日（平成24年10月10日）から溯り、概ね2年以内に竣工又は増改築・改修等が完了したもの
- (3) 応募日現在、生活の用に供されているもの

2. 応募資格・条件

原則として建築主（施主）、設計者及び施工者の3者の連名とする。また、応募責任者を定め、現地審査等に支障の無いよう、応募することについてあらかじめ関係者の承諾を得ること。

次の（1）から（11）までの応募資料により、「新築部門」・「改修部門」のいずれかを選び、応募すること。

- (1) 第5回サステナブル住宅賞応募申請書（所定の書式A4判：様式1）
- (2) 建物計画説明書（所定の書式A4判：様式2）
- (3) 建築図面（所定の書式A4判又はA3判：様式3）
付近見取図、配置図、各階平面図、立面図（2面以上）、矩計図（主要部位）、設備図（設備図が無いときは、平面図に暖冷房及び換気設備を記入した図面（各階平面図とは別図とすること。））
- (4) 住宅の長寿命化、省エネルギー、省資源など住宅のサステナブル性を示す資料（所定の書式A4判：様式4）
- (5) 居住者の生活実感等を記入した書面（所定の書式A4判：様式5）
- (6) 全景写真等（所定の書式A4判：様式6）
- (7) 建築工事費、設備工事費のおおよその内訳が分かる資料（外構工事費を除く。）
- (8) 工事の完了日を証する書面
- (9) 検査済証の写し
- (10) 確認済証の写し
- (11) 新築部門は、CASBEE 評価結果シート



国土交通大臣賞授与

3. 審査委員（五十音順、敬称略）

- | | | |
|-----|-------|--------------------------------------|
| 委員長 | 鎌田 元康 | （東京大学名誉教授） |
| 委員 | 伊藤 明子 | （国土交通省住宅局住宅生産課長） |
| 委員 | 加藤 信介 | （東京大学教授） |
| 委員 | 河田 崇 | （独立行政法人住宅金融支援機構CS推進部住宅技術情報室長） |
| 委員 | 倉渕 隆 | （東京理科大学教授） |
| 委員 | 黒川 哲郎 | （東京芸術大学名誉教授） |
| 委員 | 小玉祐一郎 | （神戸芸術工科大学教授） |
| 委員 | 清家 剛 | （東京大学大学院准教授） |
| 委員 | 瀬良 智機 | （公益財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター住宅リフォーム本部長） |
| 委員 | 安野 明男 | （独立行政法人都市再生機構技術調査室ストック再生設計チームリーダー） |
| 委員 | 吉田 倬郎 | （工学院大学教授） |

※応募資料などの詳細については財団ホームページ
http://www.ibec.or.jp/hyosyou/housing/5th_index.html
をご覧ください。



会場風景

第5回サステナブル住宅賞 受賞作品

賞	作品名	建設地		構造	階数	延べ面積	設計者	施工者
		都道府県	市区町村					
国土交通大臣賞 (新築部門)	南禅寺の家	京都府	京都市	木造	2/0	90	トヨダヤスシ建築 設計事務所	(株)ツキデ工務店
国土交通大臣賞 (改修部門)	芝山町の 農家	千葉県	山武郡 芝山町	木造	1/0	225	一級建築士事務所 大角雄三設計室	(株)宮應建設
独立行政法人 住宅金融支援機構 理事長賞 (新築部門)	古さこそ モダンな家 づくり・K邸	長野県	飯田市	木造	2/0	223	(有)みすゞ設計	伊賀良木材(株)
一般財団法人 建築環境・省エネルギー 機構理事長賞 (新築部門)	オープン ルーフの ある家	東京都	目黒区	木造	2/0	138	カサボン住環境 設計(株)	(株)参創ハウテック
一般財団法人 建築環境・省エネルギー 機構理事長賞 (改修部門)	33年目の 改庵快居	岐阜県	恵那市	木造	1/0	163	金子一級建築 事務所	金子建築工業(株)
一般財団法人 ベターリビング理事長賞 (新築部門)	アース・ ブリックス	千葉県	千葉市	組積造 ・木造	1/0	41	(株)アトリエ・天 工人、(有)EOS plus、佐藤淳構造 設計事務所	小川共立建設(株)
社団法人 日本木造住宅産業協会 会長賞 (新築部門)	堺パッシブ ハウス	大阪府	堺市	木造	2/0	166	なちゆるら・さーか す	(株)丹生
優秀賞 (新築部門)	風のカタチ	群馬県	伊勢崎市	木造	2/0	116	スタジオ グリーンブルー	小林工業(株)
優秀賞 (新築部門)	FLAP	広島県	広島市	RC造	3/0	238	土井一秀 建築設計事務所	(有)アルフ

- (注) 1. 階数は、地上階/地下階である。
 2. 延べ面積の単位は㎡である。
 3. 建築主(施主)の氏名については公表しない。

特集◎「第5回サステナブル住宅賞」受賞作品介绍



表彰式 来賓ごあいさつ

国土交通大臣政務官 坂井 学

ご紹介をいただきました国土交通大臣政務官の坂井学でございます。第5回のサステナブル住宅賞表彰式、誠におめでとうございます。また、今回受賞された皆様方、心からお慶びを申し上げたいと思っております。

先程、村上理事長からもお話がございましたけれども、省エネということで考えてまいりますれば、工業部門、運輸部門の省エネ対策というのは非常に進んでおりますし、また政府もかなり力を入れてやっております。そういう中でやはり比重も大きく、一番課題となっておりますのが民生部門であり、私達が通常生活をする中で、使っていくこのエネルギー、これをどう省エネという形でまた落としていくかということがひとつの大きな課題だろうと思っております。そういった観点からもこのサステナブル住宅賞は大いに意味があるものだと考えております。

住宅に関しましては、外観が格好良いとかいろいろ流行がございますが、省エネや環境に負荷のかからない、そういった住宅が格好良いという国民の思いも少しずつ今、醸成されつつあるのではないかと思っておりますので、皆様方にもまた一層のご努力をお願いをしたいと思いますと思っております。

私個人の話になりますが、私は14、5年前に配管工として働いておりました、場所は田舎でございましたが、一般住宅の上下水の排水、それから器具の設置等の設備屋として働かせていただいております。その中で一番感じたのは、省エネということから考えますと、長く使える住宅というのが一番省エネではないかと、田舎では本当にいい柱、いい梁を持った住宅がございまして、少し手直しをする、もしくは屋根を葺き替えるだけでまだまだ使えるという住宅がございました。こういったものが、やはり最もエコであり、また今で考えれば環境にいいのではないかと思います。

また、設備屋として器具を設置した経験から、リフォームしやすいお宅とそうでないお宅があって、リフォームがしやすい設計というのをもたいへん必要ではないかと思いました。我が家は夫婦と子供3人の5人で住んでおりますが、そのうち子供が独立をすると今度は2人で住むようになることも考えられますし、またその後、子供が孫を連れて帰って来るといことになるとまた今度は人数が増えると、そういった時にリフォームをしやすい、新たに家を建てるのではなく、リフォームをして十分住めるという家もまたおもしろい観点ではないかと自分の体験からも感じました。

その一方で、こういったリフォームをする際、細々とした作業をしてくれる職人さんが今不足しているというお話も聞きましたので、リフォームやまたエコに対しての模様替えをする際に、本当に技術のある専門家の育成というものも必要だと実感しております。

いろいろお話を申し上げましたけれども、皆様方のこの分野はますます必要となる分野でございますので、今日お集まりの皆様方のご健勝ご多幸、そしてご発展を心から祈念を申し上げてご挨拶とさせていただきます。どうもおめでとうございます。